



Sun A. Kaken

**第115期(2024年3月期)
第2四半期 決算説明会**

株式会社 サンエー化研

2023年12月5日

目次

1. 第115期(2024年3月期)第2四半期決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

3. 第115期(2024年3月期)業績予想と今後の施策

- 通期業績予想
- セグメント別業績予想、今後の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

4. 参考情報

- トピックス
- 基本情報

目次

1. 第115期(2024年3月期)第2四半期決算概要

- 連結貸借対照表
(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

第115期第2四半期決算概要: 連結貸借対照表(資産の部)

(単位: 百万円)

科 目	2022年3月期末 (第113期末)	2023年3月期末 (第114期末)	2024年3月期 (第115期) 第2四半期末	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	22,570	22,408	22,065	▲342	▲1.5%
現金預金	7,296	6,262	6,357	94	1.5%
売上債権	10,671	10,883	10,744	▲139	▲1.3%
棚卸資産	4,269	4,987	4,733	▲254	▲5.1%
その他	332	274	230	▲43	▲15.9%
固定資産	13,376	13,202	13,862	659	5.0%
有形固定資産	7,060	6,835	6,632	▲203	▲3.0%
無形固定資産	47	40	37	▲3	▲7.7%
投資その他の資産	6,268	6,327	7,192	865	13.7%
資産合計	35,946	35,611	35,928	316	0.9%

第115期第2四半期決算概要: 連結貸借対照表(負債・純資産の部)

(単位:百万円)

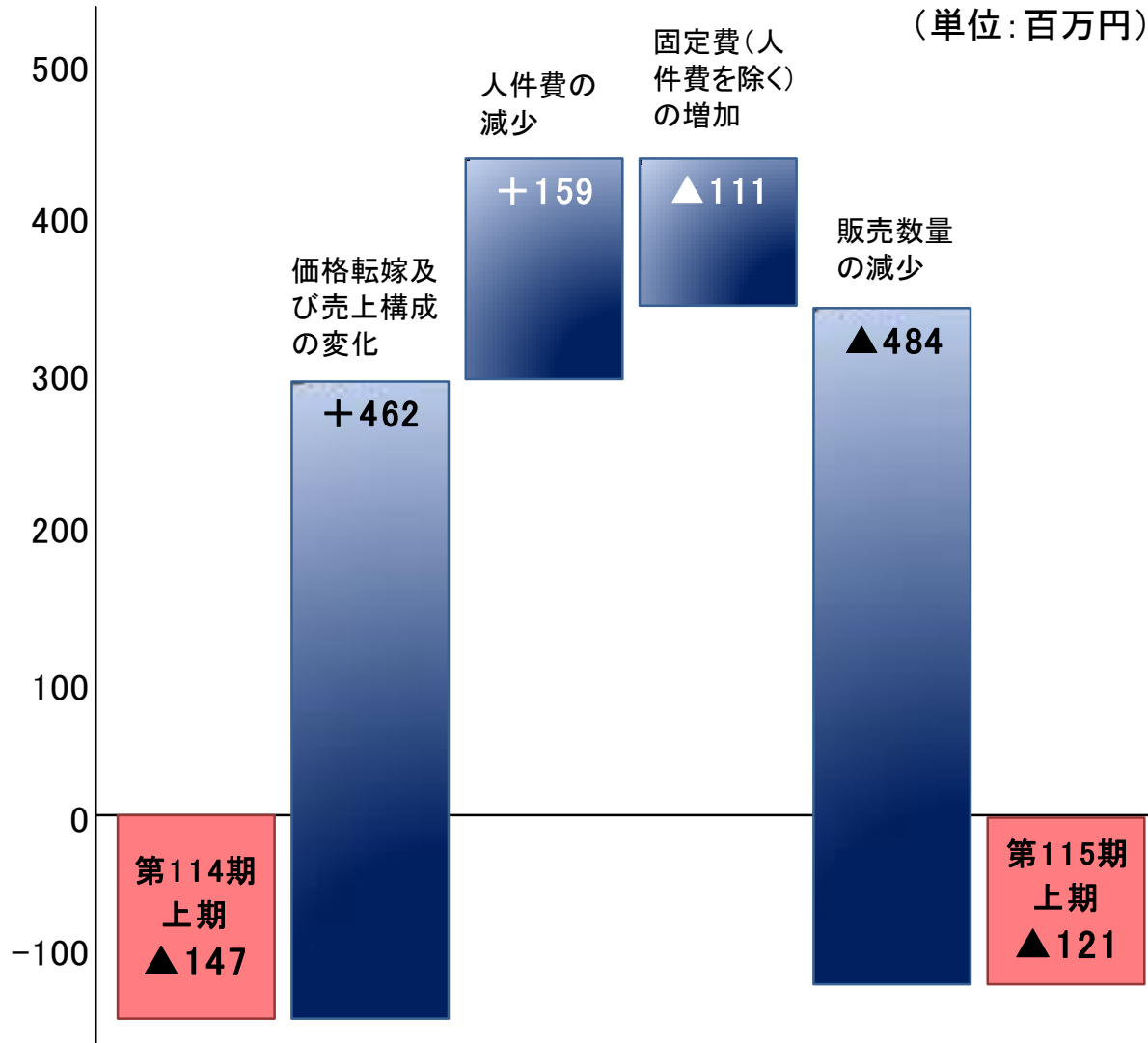
科目	2022年3月期末 (第113期末)	2023年3月期末 (第114期末)	2024年3月期 (第115期) 第2四半期末	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	12,085	12,700	12,626	▲73	▲0.6%
仕入債務	7,019	6,920	6,817	▲103	▲1.5%
短期借入金	3,530	3,630	3,650	20	0.6%
その他	1,536	2,149	2,159	9	0.5%
固定負債	2,932	2,431	2,403	▲27	▲1.1%
長期借入金	1,364	883	648	▲235	▲26.6%
その他	1,567	1,548	1,755	207	13.4%
負債合計	15,017	15,132	15,030	▲101	▲0.7%
純資産	20,928	20,479	20,897	418	2.0%
負債及び純資産合計	35,946	35,611	35,928	316	0.9%

第115期第2四半期決算概要: 連結損益計算書

(単位: 百万円)

科 目	2022年3月期 (第113期) 第2四半期	2023年3月期 (第114期) 第2四半期	2024年3月期 (第115期) 第2四半期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	14,766	14,059	13,887	▲172	▲1.2%
売上原価	12,505	12,679	12,495	▲183	▲1.4%
売上総利益	2,260	1,380	1,391	11	0.8%
販売費及び一般管理費	1,615	1,527	1,513	▲14	▲1.0%
営業利益	645	▲147	▲121	26	—
営業外収益	96	192	165	▲27	▲14.2%
営業外費用	15	17	16	0	▲5.1%
経常利益	726	27	27	0	▲1.3%
特別利益	27	—	—	—	—
特別損失	—	58	3	▲55	▲94.4%
税金等調整前四半期純利益	754	▲30	24	54	—
税金費用他	231	▲12	15	28	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	523	▲18	8	26	—

第115期第2四半期決算概要：営業利益の要因分解



販売面においては、原材料費や電力費の高止まりを受けて価格転嫁を推し進めた結果、4億62百万円の増益効果が生じました。しかしながら、液晶パネルの需要低迷が長期化したことにより光学用途の表面保護フィルムの販売数量が減少し、4億84百万円の減益要因となりました。

費用面においては、生産量の減少から人件費が1億59百万円減少し、増益要因となりましたが、販売数量減少に伴う在庫縮小によって固定費負担が増加し、1億11百万円の減益要因となりました。

これらの諸要因により連結営業利益は26百万円赤字幅を縮小し、1億21百万円の営業損失となりました。

目次

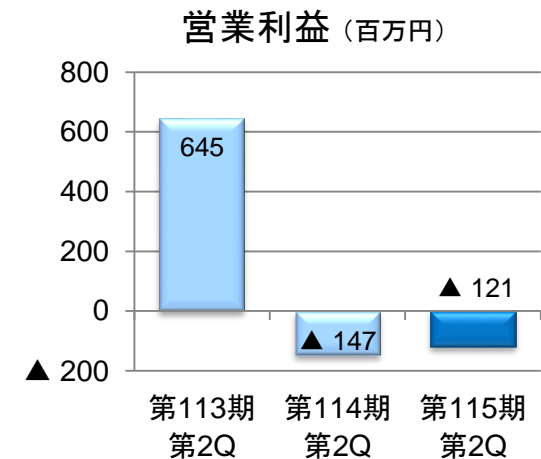
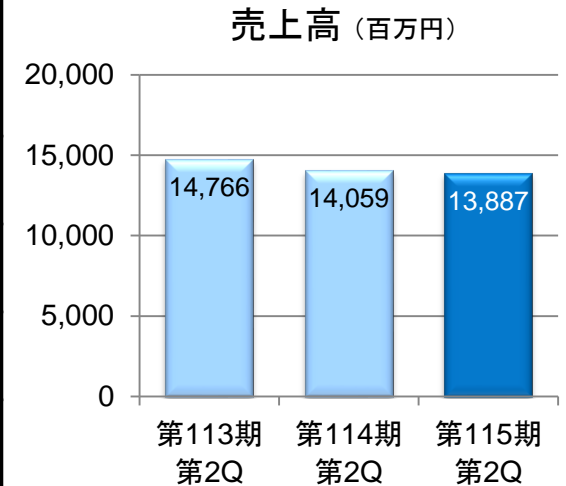
2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

各セグメントの概況: セグメント別業績内訳

(単位: 百万円)

科目/ セグメント	2022年3月期 (第113期) 第2四半期	2023年3月期 (第114期) 第2四半期	2024年3月期 (第115期) 第2四半期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	14,766	14,059	13,887	▲172	▲1.2%
軽包装材料	5,776	6,022	6,194	172	2.9%
産業資材	4,732	4,824	4,778	▲45	▲0.9%
機能性材料	4,128	3,047	2,724	▲322	▲10.6%
その他	129	165	189	24	14.9%
営業利益	645	▲147	▲121	26	—
軽包装材料	273	102	157	55	54.2%
産業資材	15	▲189	▲172	17	—
機能性材料	356	▲78	▲116	▲37	—
その他	▲1	18	9	▲9	▲49.2%



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売



主要顧客

- 食品製造業
- 医薬品・医療器具製造業
- 精密機器製造業
- その他製造業

生産拠点

静岡工場



奈良工場



東邦樹脂工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

食品用包材

第2Q売上高
3,246百万円



「レンジDo!」、「ポロソ」、清涼飲料用パウチなどが安定した売上を支える。

市場環境

- 同業400-500社程度
- 汎用品は競争厳しい
- 環境対応包材のニーズ高まる

収益性・成長性

- コロナが終わり外食が戻ったが、内食も根付いており、微量ながら増加
- 業務用包材の需要は回復

医薬品・医療用包材

第2Q売上高
1,002百万円



徹底した品質管理で顧客の信頼は厚い。環境配慮型製品「Medi Green」に期待。

市場環境

- 品質要求厳しく新規参入困難
- 医薬業界全体で環境意識が高まっている

収益性・成長性

- CO2削減に寄与する医薬品包材の需要増加が見込まれる
- 高齢化の進行で医療分野は成長期待

日用品等の包材

第2Q売上高
1,946百万円



多様な製品展開で受注変動リスクに対応。独自製品の開発・拡販に注力。

市場環境

- 環境対応包材の引き合い増加
- 高機能・利便性のニーズ高い
- 一般包材は競争厳しい

収益性・成長性

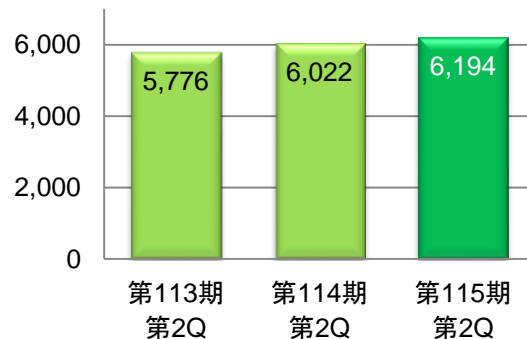
- 詰替え用パウチは多様化で競争厳しく
- 耐内容物包材は需要増加が見込める
- 環境対応製品開発を進め新市場を開拓

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

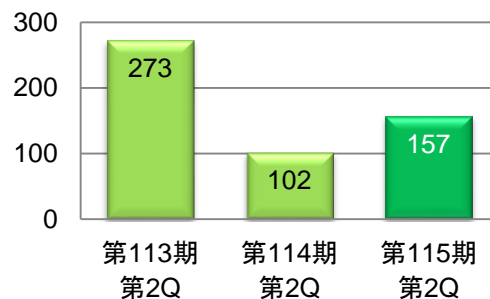
軽包装材料

- 売上高：6,194 百万円（前年同期比 2.9% 増）
- 営業利益：157 百万円（前年同期比 54.2% 増）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 食品用包材は、食品価格の値上がりによる消費者の購買量低下に伴い受注が減少。一方、子会社におけるOEM案件の受託等により生産数量が増加したことや、価格転嫁による売価上昇により、増収。
- 日用品等の包材は、洗剤用パウチの受注減少から減収。
- 医薬品・医療用包材は、医療品の販売数量が減少傾向にあることから医薬品用包材の受注数量が減少するも、価格転嫁の進行もあり、増収。
- 当セグメント全体では、販売数量は僅かに減少するも、全分野で価格転嫁が進み、増益。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材セグメント

粘着テープ基材及び各種剥離紙の製造・販売



主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- プラスチック製品製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

生産拠点

掛川工場WEST



袋井工場



東邦樹脂工業



シノムラ化学工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

紙・布へのラミネート製品

第2Q売上高 1,915百万円



主に粘着テープ用基材をテープメーカーに販売。

国内テープメーカー出荷数量

（日本粘着テープ工業会）

- 紙テープ：約350百万m²/年
- 布テープ：約120百万m²/年

市場環境

- 海外製布テープ流入で競争激化
- 物流停滞により紙テープ需要減

収益性・成長性

- 一般品は生産数量の確保が課題
- 一部テープメーカーの紙粘着テープ廃番により当社製品の受注拡大
- シノムラ化学工業子会社化によりシナジー効果で競争優位
- 原材料値上がりによる収益への影響大

剥離紙

第2Q売上高 2,862百万円



テープメーカーの他、電子・化学・自動車関連等、ユーザーは多岐にわたる。

市場規模（推定）

- 約2,700百万m²/年

市場環境

- 国内の需要減は底打ちも、消費低迷により回復が遅れている

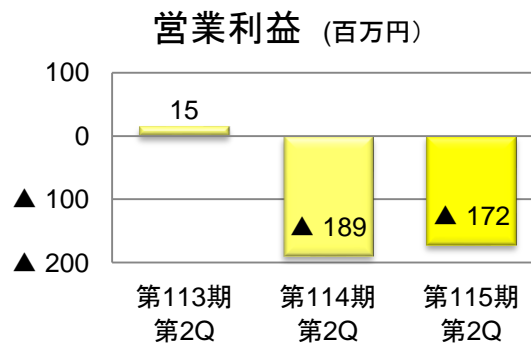
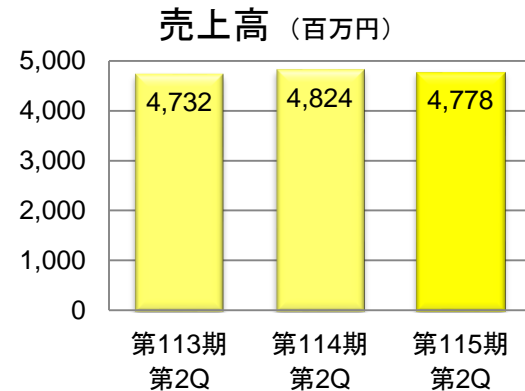
収益性・成長性

- 一般用途は競争激化
- 自動車関連部材の回復に期待
- メディカル用途の拡充を目指す
- FPC用工程紙は、厳しい環境下ながら微増

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材

- 売上高： 4,778 百万円（前年同期比 0.9% 減）
- 営業利益：▲172 百万円（前年同期実績 ▲189百万円）

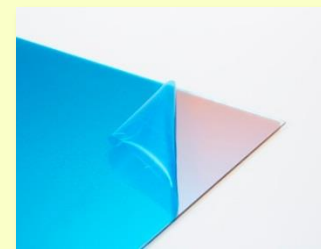


- 紙・布へのラミネート製品については、消費低迷による梱包用テープの需要減少、海外製テープの流入による国内テープメーカーの販売数量の減少、さらに台風発生数の減少に伴う養生用テープの需要減少により、受注減少。
- 剥離紙については、価格転嫁の進行により売上は若干増加するも、自動車関連用途や建材関連用途の受注回復は遅れ気味。
- 価格転嫁の進行と連結子会社：シノムラ化学工業との営業部門統合による合理化効果により営業損失は改善するも、販売数量の減少により改善幅は僅かにとどまる。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

機能性材料セグメント

機能性プラスチックフィルム（各種表面保護フィルム等）の製造・販売



主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

生産拠点

掛川工場



袋井工場



奈良工場



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

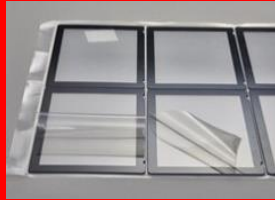
オレフィン系粘着加工品

第2Q売上高 1,342百万円

サニテクト
(粘着塗工タイプ)



PAC
(2層押出しタイプ)



最初に生産を開始したPO系の表面保護フィルムで、用途は多岐にわたる。

市場規模（推定）

粘着塗工タイプ

- 約300百万m²/年
(光学用途)

2層押出しタイプ

- 約700百万m²/年
(光学用途)

収益性・成長性

粘着塗工タイプ

- 品種により他社製2層押出しタイプとも競合
- 一般用途は国内市場縮小で需要が減少傾向
- レーザークット用など非光学用途の需要拡大に期待

2層押出しタイプ

- 海外光学フィルムメーカーの台頭により、国内需要が大幅減。他用途への展開が急務
- 環境配慮型製品として強粘着タイプに期待

その他の粘着加工品

第2Q売上高 1,382百万円

SAT、
サニテクトNS
その他
(PET基材タイプ他)



PETフィルムを基材とし、品質要求レベルの高い用途に使用される。

市場規模（推定）

精密塗工タイプ

- 約500百万m²/年
(光学用途)

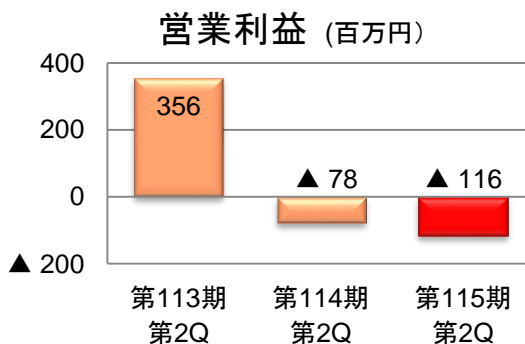
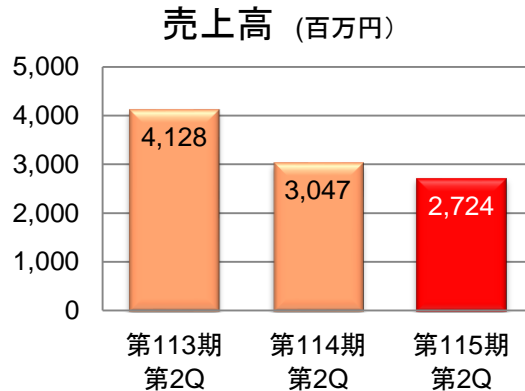
収益性・成長性

- 世界的な不況により光学用途は低調に推移しているが、在庫消化が進み底を脱した感が有り、本格的な回復が待たれる
- スマートフォン関連はフォルダブルタイプの需要が増加傾向

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

機能性材料

- 売上高： 2,724 百万円（前年同期比 10.6 % 減）
- 営業利益：▲116 百万円（前年同期実績 ▲78百万円）



- オレフィン系粘着加工品については、非光学用途の分野で受注を維持し、売上は前年同期並み。
- その他の粘着加工品については、テレビ、パソコン、スマートフォン向け液晶パネルの販売低迷が長期化し、ディスプレイ市場の需要は減少。その影響で光学用途の表面保護フィルムは大幅な減収。
- 光学用途の販売不振に伴う固定費率の上昇に価格転嫁の遅れが加わり、営業損失が拡大。

目次

3. 第115期(2024年3月期)業績予想と今後の施策

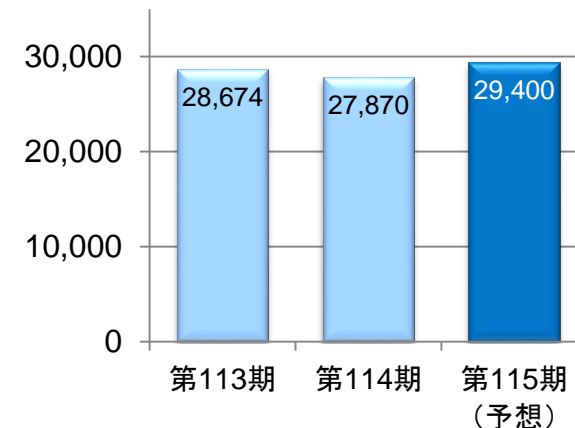
- 通期業績予想
- セグメント別業績予想、今後の施策
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

第115期業績予想と今後の施策：通期業績予想

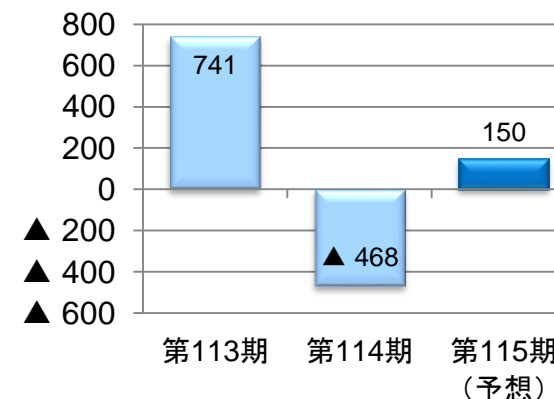
(単位：百万円)

科目／ セグメント	2022年3月期 (第113期)	2023年3月期 (第114期)	2024年3月期 (第115期) (予想)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	28,674	27,870	29,400	1,529	5.5%
軽包装材料	11,285	12,049	12,300	250	2.1%
産業資材	9,464	9,904	10,350	445	4.5%
機能性材料	7,639	5,588	6,450	861	15.4%
その他	283	327	300	▲27	▲8.4%
営業利益	741	▲468	150	618	—
経常利益	973	▲236	300	536	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,515	▲198	870	1,068	—

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



第115期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（軽包装材料）

軽包装材料

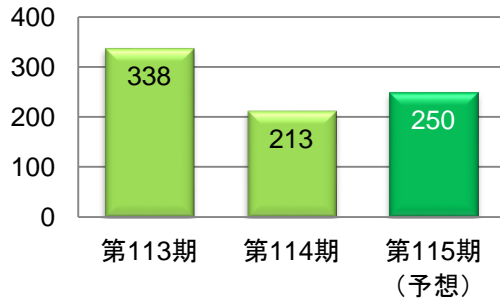
【第115期業績予想】

- 売上高：12,300 百万円（前期比 2.1% 増）
- 営業利益：250 百万円（前期比 17.3% 増）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）

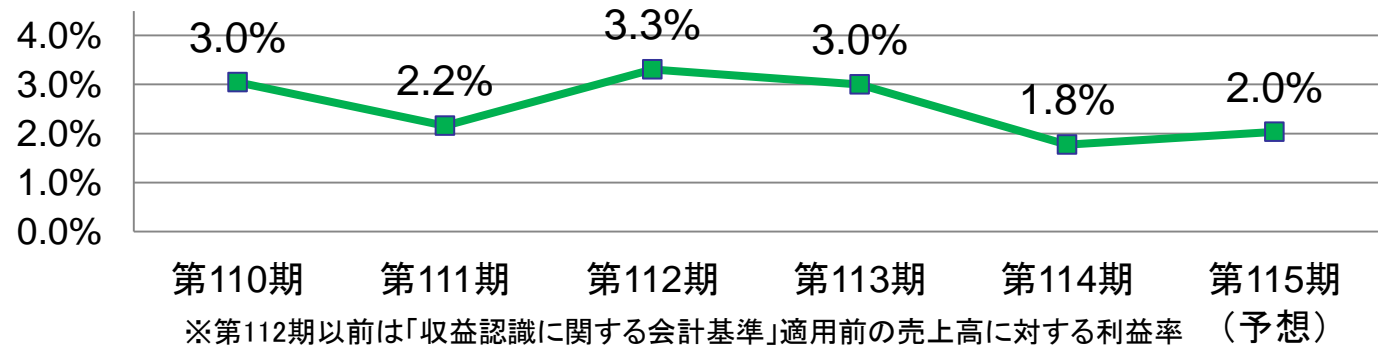


- 電子レンジ対応食品包材は、レトルトタイプからの切替需要が増加傾向にあり、「レンジDo!」は引き続き好調な受注が見込まれる。
- 使用済容器の減容化やプラスチック使用量削減の流れを受け、ボトルタイプの容器からパウチへの切替需要を取り込む。
- リサイクルしやすいモノマテリアルタイプのエア緩衝材を早期に商品化し、受注獲得を目指す。

第115期業績予想と今後の施策：今後の施策（軽包装材料）

軽包装材料

営業利益率の推移



- 今後も堅調な需要が見込まれる電子レンジ対応食品包材「レンジD○！」の市場開拓を継続し、耐内容物包材「プラピカ」の拡販を進める。
- バイオマス原材料を配合した環境配慮型医薬錠剤包装材「Medi Green®」、紙を主体とするバリア性の高い包材、その他バイオマスプラスチックや生分解性プラスチックを使用した包材等、環境配慮型製品の開発を推進し、拡販を図る。
- 製袋事業の拡大を展望し、その生産拡大と生産効率の向上を志向し、収益の向上につながる再編策を検討していく。

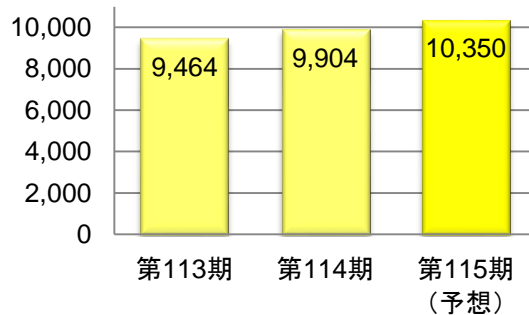
第115期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（産業資材）

産業資材

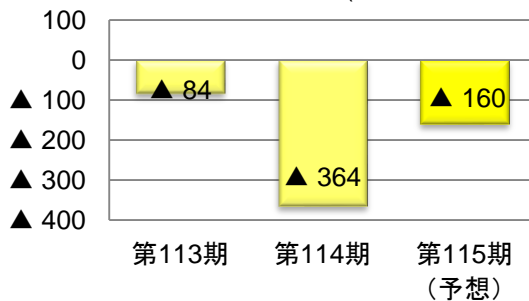
【第115期業績予想】

- 売上高：10,350 百万円（前期比 4.5% 増）
- 営業利益：▲160 百万円（前期実績 ▲364 百万円）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）

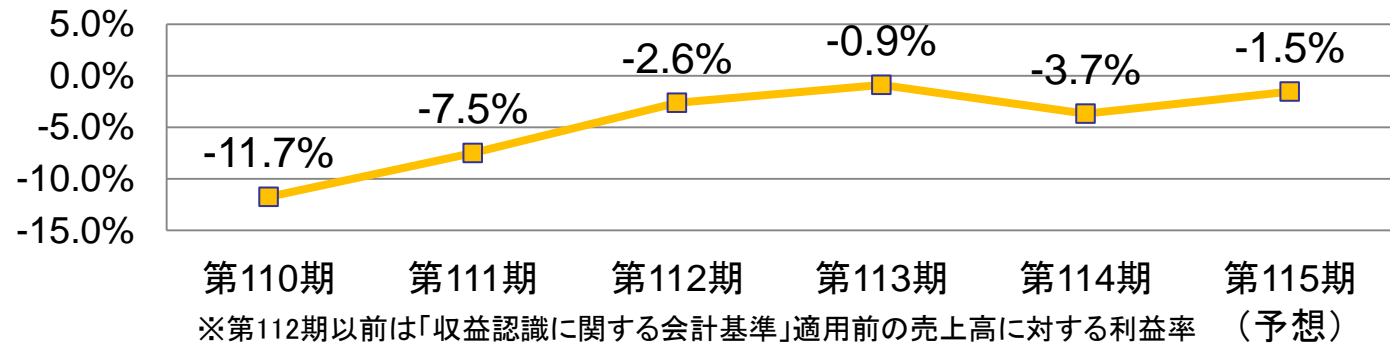


- 紙・布へのラミネート製品については、養生用テープ向け、梱包用テープ向けのテープ用基材の受注がともに前期並みで推移する見込み。
- 剥離紙については、ラベル用等一般用途向けは前期並みの受注が見込まれ、自動車部品関連は回復の兆しを見せている。
- 原材料コストだけでなく、ユーティリティコスト上昇分についても価格転嫁を進め、一層の赤字縮小を見込む。

第115期業績予想と今後の施策：今後の施策（産業資材）

産業資材

営業利益率の推移



- シノムラ化学工業株式会社との間では、営業統合に続いて生産、管理などの機能統合を進め、販売・生産体制の最適化、コスト削減などでシナジー効果創出を図る。
- 今後も成長が見込まれるIT関連・自動車関連分野に向けた製品展開を推進する。
- リサイクルしやすい剥離紙「エコセパ」の拡販に努めるとともに、その他の環境配慮型製品や炭素繊維関連製品の開発に注力する。

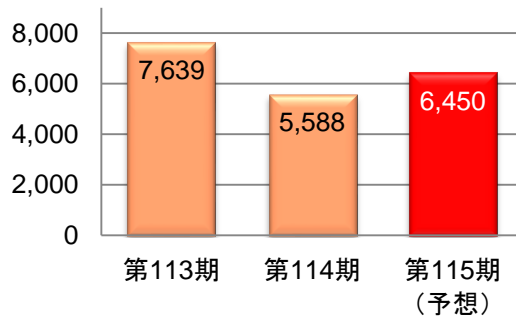
第115期業績予想と今後の施策：セグメント別業績予想（機能性材料）

機能性材料

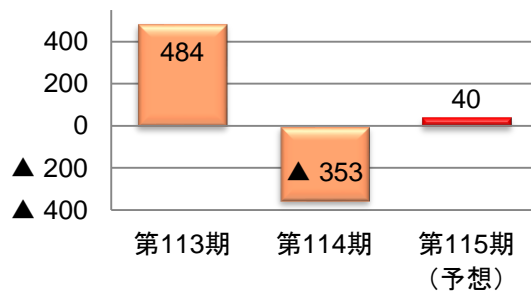
【第115期業績予想】

- 売上高： 6,450 百万円 （前期比 15.4 % 増）
- 営業利益： 40 百万円 （前期実績 ▲353百万円）

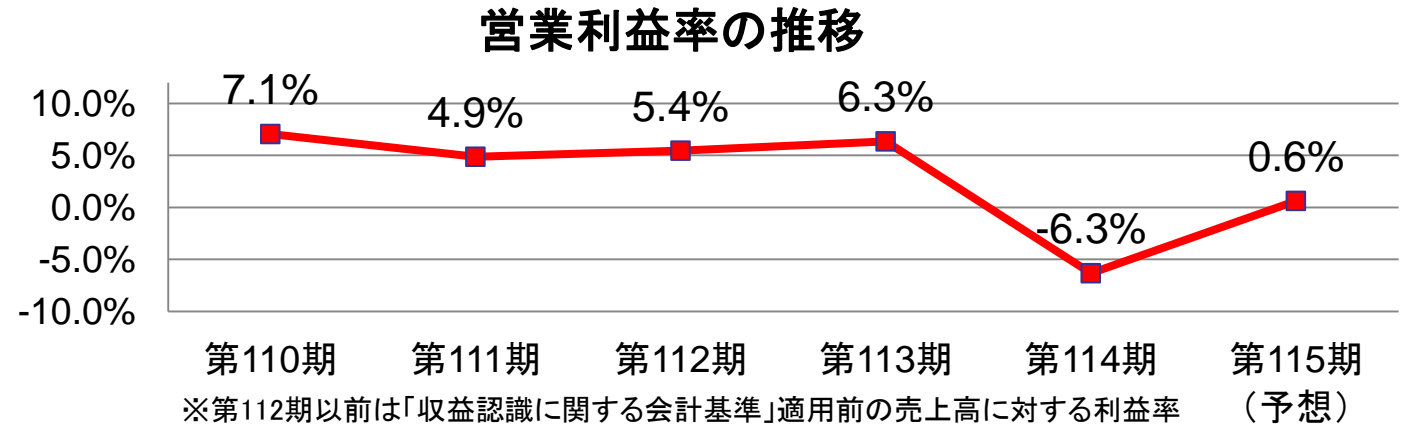
売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 液晶パネルは、パネルメーカーの在庫圧縮が進み底打ち感があるが、需要の回復力は弱い。
- スマートフォン市場に回復の兆しが見え始める中、フォルダブルタイプの新機種が増えつつあり、市場の成長が見込まれる。
- 非光学用途では、ステンレスをはじめとした金属板のレーザーカット用や塩ビ代替タイプが採用され始めており、顧客ニーズに応えることで更なる拡販が期待される。

第115期業績予想と今後の施策：**今後の施策（機能性材料）****機能性材料**

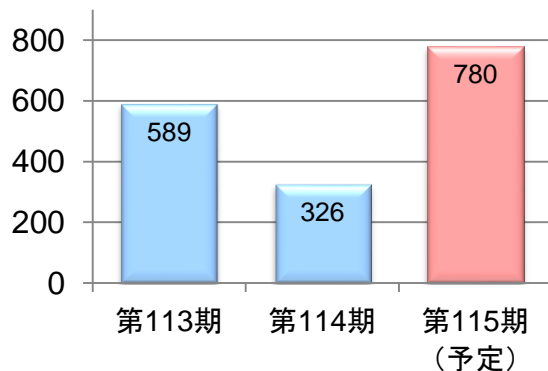
- 価格改定活動を継続実施するとともに、一部設備の統廃合による効率化を検討する。
- 金属板用途及び特殊加工用途向け「サニテクト」の拡販など、非光学用途の市場開拓に努める。
- 表面保護フィルムの分野にとどまらず、成長分野向け機能性フィルムの開発を推進する。

第115期業績予想と今後の施策：設備投資及び研究開発費

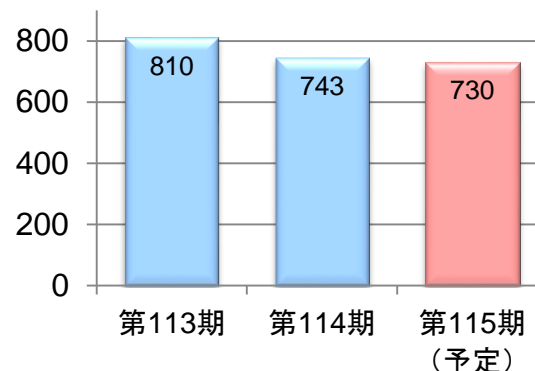
(単位：百万円)

科目	2022年3月期 (第113期)	2023年3月期 (第114期)	2024年3月期 (第115期) (予定)	備考
設備投資額	589	326	780	製袋機増設他
減価償却費	810	743	730	従来水準を維持
研究開発費	417	399	400	環境配慮型製品の開発に注力

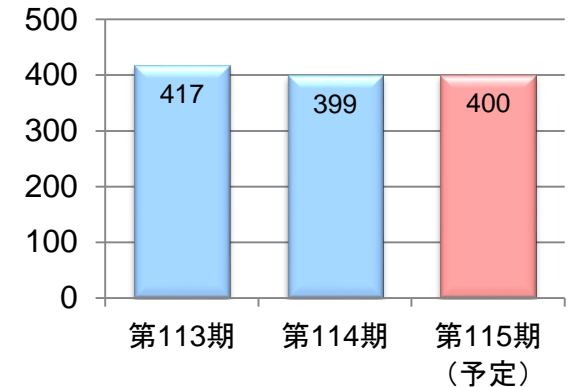
設備投資額 (百万円)



減価償却費 (百万円)



研究開発費 (百万円)



目次

4. 参考情報

- トピックス
- 基本情報

参考情報:トピックス 1

■ 自己株式の取得

目 的 : 株主還元の充実と資本効率の向上

取得期間 : 2023年2月15日～2023年11月7日

取得株数 : 429,500株(発行済株式総数に対する割合:3.8%)

取得総額 : 約2億4百万円

■ 遊休資産(札幌工場跡地)売却

目 的 : 経営資源の有効活用による資産の効率化

所 在 地 : 北海道札幌市清田区美しが丘一条10丁目

面 積 : 22,846㎡

引 渡 日 : 2023年10月16日

売 却 益 : 約9億44百万円 ※115期第3四半期に特別利益(固定資産売却益)計上

参考情報: トピックス 2 (新製品紹介 その1)

■ 「レンジD○！」シリーズ 新タイプ


従来の「レンジD○！」にサステナビリティ関連のラインナップを拡充

■ バイオマスPEタイプ

- 基材に植物由来のバイオマスPEを10%配合したフィルムを使用
- 従来品と比較してCO2排出量を約8%削減



■ 紙構成タイプ

- 重量比50%超の紙を基材に使用することにより、 表示が可能
- 従来品と比較してプラスチック使用量を約26%削減



■ 耐熱タイプ

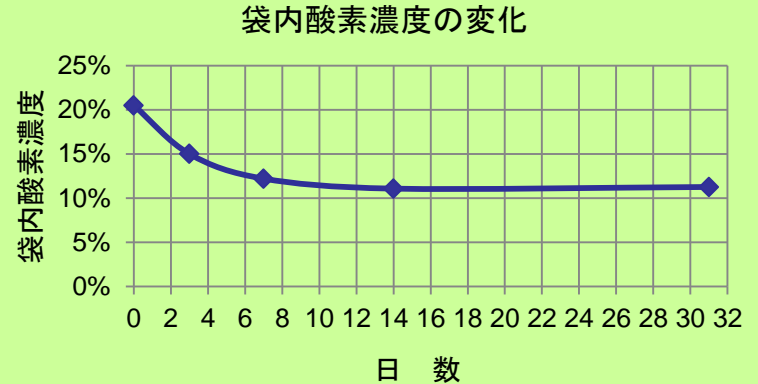
- 特殊CPPの採用により、セミレトルト殺菌＋冷凍流通に対応
- 長期保存が可能となり、フードロス削減に貢献



参考情報: トピックス 2 (新製品紹介 その2)

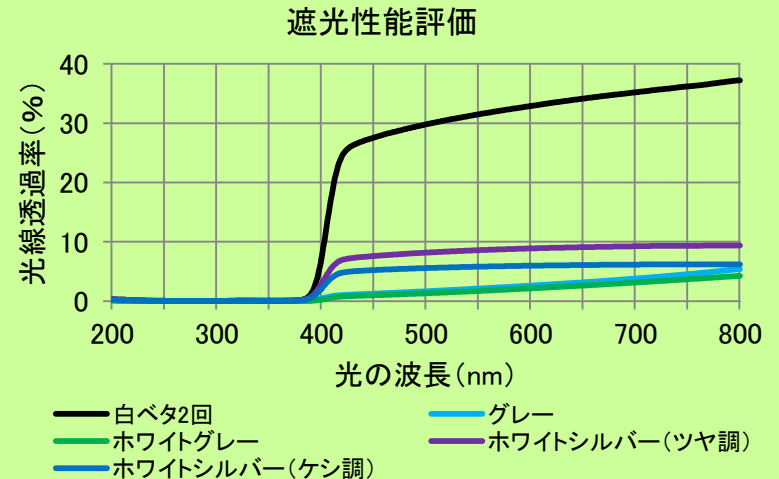
■ 酸素吸収タイプ

- パウチ内側に酸素吸収機能を付加
- 袋内の酸素を除去することにより内容物の酸化を防止し、風味保持を実現
- 酸素吸収能力 : 0.1ml/cm²(参考値)



■ 遮光タイプ

- パウチに遮光機能を付加
- 光の影響による内容物の退色を防止し、風味保持を実現
- 内容物の色が透けないため、パウチデザイン的美麗性が向上



参考情報: 基本情報

2023年9月30日現在

商 号
 証 券 コ ー ド
 設 立 者
 代 表 者
 事 業 所

株式会社 サンエー化研
 4234 (東証 スタンダード)
 1942年9月 (昭和17年9月)
 代表取締役社長 櫻田 武志
 本 社 : 東京都中央区日本橋本町1-7-4
 営 業 拠 点 : 東京、大阪、名古屋
 【海外】台湾、中国上海 (連結子会社 灿櫻(上海)商貿)
 生 産 拠 点 : 静岡、袋井 (2カ所 内1カ所は連結子会社 シノムラ化学
 工業(株) 本社工場)、掛川(2カ所)、天理、野木 (連結子
 会社 東邦樹脂工業(株) 本社工場)

資 本 金
 事 業 内 容
 連 結 従 業 員 数
 決 算 期

研究開発拠点 : 掛川
 21億76百万円
 高付加価値プラスチックフィルム・包材の製造・販売
 690名
 3月31日

業績予想は、本資料の発表日現在(2023年12月5日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問い合わせ先

株式会社 サンエー化研
経営企画室

Tel:03-6661-7904 Fax:03-6661-7908
E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp